



2学期のおおきな行事である文化祭も終わり、少しはおちついて学習できる時期になってきたかと思っています。あたふたと過ごしたここ数週間のため、すっかりわすれていましたが、10月27日から11月9日までは読書週間になっています。

読書週間とは、文化の日（11月3日）を中心とする前後1週間において、読書の普及をめざすための行事週間です。1924年に図書館週間として発足し、のち図書祭と改称、1948年からは毎年10月27日からの2週間を読書週間とすることになりました。よい本を正しく読む習慣をつけさせ、読書生活を向上させるために設定されたもので、良書の推薦、読書感想文の指導などがおこなわれます。



今年のキャッチフレーズは「ラストページまで駆け抜けて」です。だれが考えたのか、うまくいったものです。編集長もけっこう読書は好きです。推理小説などはわくわくドキドキ、この先どうなるのだろうと思うと、時のたつのもわすれ没頭してしまいます。読書は想像の世界です。主人公も登場人物も場面設定も、すべては想像の世界。作者なりの世界があるのですが、そこは読書です、読み手の思うままに想像をめぐらすことができます。自分の価値観や世界観のなかで物語をどんどん拡大させることができるのです。

テレビや映画などは視覚に訴えますから、より明確なイメージがつかめます。ところが、読書は読み手が勝手に想像するものですから、読み手によってそれぞれイメージがちがいます。読み手のもつ想像力によって、いかようにも発展させることができるのです。ここが読書の楽しいところではないでしょうか。

図書室の前には毎日の来室者数がはりだされています。昼休みだけの開館とはいえ、10数人はあまりにもさみしい気がします。読書をしない人の言い訳としていちばん多く使われるのが、「読書する時間がない」ということらしいです。ケータイ・スマホをいじる時間はあっても、本を読む時間はないというのは残念なことです。

人それぞれに、おもしろいと思う本はちがうでしょうが、いずれにしても「読書週間」が、本を読み、読書が好きになるきっかけになれば素晴らしいことだと思います。

いま、図書室にはどんどん新しい本が入ってきています。読書の秋です。秋の夜長、あなたも本に恋してみたいかがでしょうか。

2020 第74回  
**読書週間**  
10月27日[火]～11月9日[月] (12日間)

